

令和4年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

甲斐市立敷島北小学校

■この調査は・・・

義務教育の機会均等とその水準の向上のために、児童生徒の学力や学習の状況を把握・分析して教育施策の改善を図るとともに、一人ひとりの児童生徒の学習の課題を把握して指導改善につなげるために実施しました。本校の子どもたちの課題について共通理解を図り、学校・家庭・地域が一体となって学力・学習状況の改善に取り組めるよう、結果の概要をお伝えします。

■調査の結果は・・・

対象が小6と中3、教科も国語／算数・(数学)／(英語)に限られています。したがってここに示す結果は児童生徒の「学力の特定の一部」であることをご理解ください。(英語・理科は、3年に1度の調査となります。)

1 調査結果について

■学力調査結果からみえる本校の子どもたちの姿

- ・国語の平均正答率は全国より高くなっています。特に、「読むこと」においては全国平均正答率を大きく上回るなど多くの問題で全国平均を上回っています。一方、「話すこと・聞くこと」では全国正答率を下回り、話し合いの場において互いの立場や考えを尊重しながらも自分の考えを伝えたり必要なことを質問したりする力に課題がみられました。
- ・算数の平均正答率は全国よりやや低くなっています。「データの活用」など全国平均を上回る問題もありましたが、多くの領域においてやや全国平均より低い状況です。特に、「記述式問題」において課題がみられます。
- ・理科でも平均正答率は全国よりやや低くなっています。学習した内容と日常生活とを関連づけて考えることに苦手意識がみられます。

■質問紙調査からみえる本校の子どもたちの姿

- ・よい傾向がみとめられる項目
「基本的な生活習慣」や「自己肯定感」などほとんどの項目において高い数値を示しています。
- ・課題となる項目
学校での「ICT機器活用」についてと「家庭学習の習慣化」の数値が低いです。

2 これからの取組について

■学校で取り組んでいくこと

- ・学校での「ICT機器活用」については、日々の授業の中で一人一台端末などを使った活動を増やすなど今後の積極的な活用に努めていきます。
- ・生きた語彙の習得ができるよう、学習した漢字やことわざ・慣用句などを日常的に活用できるような場を多く取り入れていきます。また、日常的に相手を意識しながらも自分の考えをもつ活動を授業等の中で意図的に設定し指導していきます。
- ・算数においては、学習内容の確かな理解につなげるため具体的な操作活動を重視するとともに、自分の考えを言葉や数、式を使い分かりやすく表現する場面を授業の中に多く取り入れていきます。式や言葉を効果的に使い説明する力を育成できるよう、今後も継続して指導していきます。
- ・理科の学習では、実験や観察の前に自分の予想や考えを発表する機会を多くもち、考えを説明したり発表したりする表現力を身につける活動を取り入れていきます。また学習した内容と日常生活とを関連づけて考える機会を増やしていきます。

■家庭において取り組んでいただきたいこと

- ・昨年同様各学年の「家庭学習の手引き」や山梨県の学びの改善八か条を活用するとともに、励ましの言葉をかけていただき家庭学習の習慣化に努めてください。
- ・人のために役立つことの大切さを実感できるよう、家族としての役割をもたせ取り組ませるなど、人から認められる機会を多くつくってください。